

近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

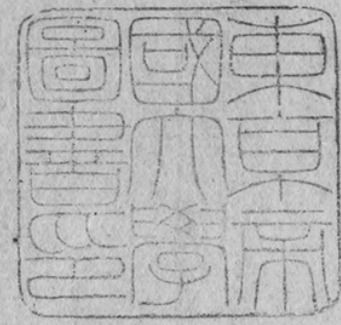
- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

明治風聞錄二

70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80

経済学部
研究室
80
266

東洋學部
研究室
80
266



38448

朝鮮國答書譯

東洋末書譯云、近時弊邑多難、屬貴國、奉事之、礼教曠闕、
 不、督責者、如、吾謹、命、聞、然、此儀、ノ、原由、孰、之、之、之、往昔
 豐臣氏、安、無、名、師、起、吾、備、之、案、吾、國、境、之、侵、擊、我、兵、不、利、
 不、得、止、之、假、屬、國、之、放、之、之、雖、吾、人、民、今、至、罪、之、貴、國、得、之、所以、
 知、者、之、必、時、待、之、罪、同、之、次、外、國、交、際、ノ、事、件、喻、示、之、尊、意、一、之、
 時、運、變、態、之、活、鑒、之、萬、國、情、勢、之、熟、慮、之、弊、邑、之、之、西、洋、之、文、儀、之、定、之、
 之、之、然、之、雖、之、交、際、之、國、家、重、事、各、國、各、自、義、之、命、之、吾、之、朝、鮮、自、朝、鮮、
 之、國、是、之、在、之、容、易、尊、意、之、徒、之、不、能、近、時、妖、教、之、故、之、以、之、佛、之、障、之、之、
 西、洋、之、象、國、之、之、吾、之、戰、之、余、力、之、之、吾、之、弱、之、雞、林、何、之、能、之、之、之、敵、之、之、只、余、之、之、
 之、之、國、内、力、之、之、合、之、死、守、之、之、之、待、之、之、不、得、止、之、之、援、兵、之、之、貴、國、之、之、此、時、之、
 當、之、之、城、中、骨、之、之、炊、之、之、使、者、之、之、冠、蓋、望、路、之、之、日、夜、東、向、之、之、貴、國、之、之、報、之、之、渴、仰、之、

貴國今使ヲ馳セ昔且ク急ヲ顧慮スル意ニ屬國情儀焉方兄乎昔
之ヲ絶テ貴國ノ之ヲ絶テ今日ナリ何朝貢多ク之未允ヤ側カ耳貴國近時
西洋ト交リ親密故令今洋方學士兵制畫佛式ヲ師トシ金穀ノ乏絶スル
英吉利依頼シ租税ノ收入ニ米利堅ニ附與シ文儀情態々一家兄弟
ノ親ミ非ス殆ト亦管轄屬從姿ニ近似ス方ウヤ輩尔名雞林ノ
屏弱ヲ洋奴腥羶ノ下風ニ立テ以テ深ク恥シト為ス貴國今如此
今後又貴國ニ事ラアタス若夫今ニ違テ以テ罪トシ巨艦來リ迫亦
辞セズ謹テ釜浦上ヲ清テ待テミ然ト雖モ弊邑貴國ニ於テ往來
罪ノ當レト問ヘシテ未ダ問サル者アリ事間ヲ待テ請弊賊ヲ謁シ敗船
ヲ備ヘ新舊衆一ニ氣セ之ヲ貴國ニ問ハトス又尊東ヲ煩ハサズ

高知藩森紀内直錄

昨十曾稻田家来々降参者有ト申ス者 重役迄突然ト松原信長
之高知藩邸ニ来リ右紀内ニ向テリトハ此度源本強乱有ル事
中三日朔稻田邸ニ控卒之者入証ニ入リ唯今ヲ拂リ方早ク參
テモ一五拜歸ル方多勢焉 稻田家後室者一其ハ何ハ松原右様
次方有ル一應使節を不問合も之則此参室ノ討中ト申スハ
夫庭ノ侍も之を力事取傍より斬テ討テ勢ハト云ニ進退
宛リトハ此隊長者若夫使者と斬テ法ヲ一連解テ進退トハ
弟ハ此参を急ニ屋ニ歸リハ此参ハ此家主人証ニ先別ト入ル今
主除キ有リ今少監者ト言送テ歸ル者若夫此参ハ不身婦女を
引纏ハ哀ミノ故と切實キ事ヤト云ト上ニ進テ一連解テ
火ニ手ヲ揚リト見ル事ヤト云ト船ニ乗リ昨夜信長進参
運室水戸参人只近昨参者送今参人右ハ母ニ申ス事ヤト云
聞ルルハ此参者若夫使者ト斬テ法ヲ一連解テ進退トハ
此参者若夫の参者若夫の参者若夫の参者若夫の参者若夫の参者

切り虹梁落人安足吊死多度危之道

新宮川町五條土所

即死

近江屋庄八坪

庄次席

三十八

東六條境内竹林町

惣身惣米少人

丹波屋庄十坪

伊三席

余不拘

雪隠屋町西洞院東入丁

笹屋表

多糸
九四

油小路雪隠屋町土丁

掃磨屋久多治

三十八

栗田領地土丁

大相屋土丁

今次席

五條橋下平井町

近江屋氏次席

三十八

日

右字縄引や糸吊近造震動より一採怪異之説あり今多梁木落し時鐘當り音之數多響る所右採蓋之と觸る事あり
右に最初職人右領主鐘接堂建之刻必定鐘鐺傳音あり可なりと度揚而響る所何れか作法よりありと云由依
勒命取斗と受右辺に響る及方木木響り響更より應五相除り身其其之異響なり故是浮説なりと云
一釣鐘目方九堂多五十五黄目斗
一雲木機六寸角

釣目方九十目斗百目斗

虹梁 長六寸斗 中三間斗 厚五寸斗

此目方三十黄目斗

租税多し物書明記在調民部省に可申上事

唐平九月九日

太政官

自今郭門外諸邸宅中におろく一切敷地は悉く修事

唐平九月九日

太政官

古人夢句合

井ノ端乃桜乃ぬる酒の味
物之を唐をく一秋乃一
道路此本權をてに喰を
古池や帷をくむ月のを
おれしをを忽し結果をを
秋草ををのれ夢れり

改府
議負
神祇官
旧幕
中下太
東台

箱はよと昨日のうらなとに
我子あま彼にぬる一春に雪
損ぬ人會をく玉をく一春に
有能乃くしに臨き故をを
中ありや夢一春にれんより
詳ぬるををのれに子に
雪に日やのれに子の子に
千もれををのれに子に
秋れくは猿味ををのれに
いとくを雪にに轉ふををのれに
ね喰わををのれにに
面白くををのれにに
ねくををのれにに
冷くををのれにに
木曾れををのれにに

諸藩
開拓使
民省
廢佛論
廢太
日幕士
官
各
藏
ト口
一
振夫家
外省
後道

猪の屠も少くも喰ふも野分なる
 哀し〜はれを多々せよふ集
 通う〜と世ややふに紙子〜
 社初〜くぬふに〜常々〜
 月華れ盡に〜人 寒の入
 依れ〜は三原條初〜く〜
 於〜也にわの〜
 庶民
 一
 田
 一
 外
 依
 行
 人
 客
 主
 皇
 國

阿公猪ノ屍下建礼ニ号

一 朝命 送奉由技賜願出奉伏鬼波者是ハ鬼ヲ許レは技
 可レ以傳々々々

但伏鬼ニ食ハ服力ニ軍門ニ出ル

一 頑愚固執能近私情慕リ改ム者及喜氣可及事
 在ニ修レ此度ア付至者也

年九月

阿 淡 兵 隊

宣教使宣市神魂大旨

スヘテ神人等物ノミタ悉ク皆産靈神賦リ賜ヘモラテ出ラ本世ニ天
 ソ本界トス故ニ理々〜是ヲ言ハ重現ハ皆其本所元天ニ歸レ〜然
 レ共其善惡邪正所行一ラスニリテ其歸スルモ又〜種々差別アル
 事也先ツ 天照大御神 高產靈神顯出ヲ
 天皇 朝廷ノ御治メラケ悉シテハ 大國主神ノ亂ヲウケテ皆其
 御賞罰ニ預ル事ナリカク顯世ニハ所々政廳アリテ 朝憲ノ分賞
 シテ事也ヤハ誰人ヲモ 大神ノ御教ニ違フ正キ道ヲ勸メ功アル者ハ
 顯世ニハ 朝廷ノ御褒賞ヲ蒙リ死シテハ 大國主神ノ御賞ヲウケ
 理如ク天ニ歸テ永ク 大神ノ御愛憐ヲ蒙ルモアリ又此地ニ留リテ幸福
 ソ諸々モ有レ然レニ其神ノ御教ニシキ 國家ノ法令ヲ犯レ諸ノ惡行ヲ
 爲レ是者ハ假令顯世ノ刑ヲ脱ルモ死シテハ 大國主神ノ冥罰ニ行テ其
 罪ヲウケ夜見ノ國ニ逐レモ有レシコレ則チ古典ノ見マテソ確徴アル如
 シテ神魂ノ大旨カク知ヘキ也

宣教使心得書

- 一 教典誦讀講談ノ節ハ禮服着用威儀ヲ敬慎スル事
- 一 己ヲ脩メテ然テ後人ヲ教スルニ正メテ然後人ヲ止ムニ是故ニ其身ニ於テ皇祖ノ大道ヲ昭明シ真ニ皇祖ノ大教ヲ敬信シ身ヲ以テ天下衆庶ノ先導トシテ事ヲ志願ス可シ是緊要ノ第一義也
- 一 教典タル者我誠心ヲ以テ德兆ヲ誘掖薰陶シテ信從セシムル先事ノ儒佛ヲ排斥セシハ道ヲ論セシ事ニ是ハ學校ニ於テ學問ノ上ハ爲スルニ凡今今日教ヲ布クトキハ化ヲ誹謗シ一毫モ爭氣アリテ人ヲ服スル事不能大ニ教化ノ大害ト爲ハ深ク是ヲ慎ムニシテ教典ノ第一義ヲ心得テ教典タル者第一大教ノ即趣意深クモ心理會シ説諭ノ際意義失誤無キ根柢篤ニ誘導シテ大教化ヲ實布スルヲ以テ要トスル事
- 一 説諭ノ際率強附會荒唐戲言ヲ發セザル爲ハ人ヲ誣ニ等ノ詭辭嚴禁止スル事
- 一 懶惰慢易ノ風深ク相慎ミ言語行事ノ間尤モ恭敬謹慎トシテ人ノ輕侮ヲ東シテ我様ノ舉動有之ハ則教事

- 一 飲食男女大慾ノ要存人過失此ノ事ヨリ生ズ別ニテ謹慎ト加フ事
- 一 貪汚ノ風漸ク有之時ハ大ニ人心ヲ損シ黨忌ヲ招キ深ク教化ノ始害ニ相成ス間嚴ニ戒慎スル事
- 一 却威光ノ慮人ヲ凌侮シ我意我慢ノ振迫ニ等堅ク慎ミ威嚴ハ己カ言行ノ慎自リ生シテ事ヲ易簡忠恕ノ風ニ掛ヘキ事
- 一 教典ハ衆庶ノ真信俾依賴イタス居様心ヲ用エキ事也依之居所飲食ヨリ臥路宿泊人馬往來等ニ至テ易簡ノ事トシテ所在衆庶ノ迷惑ヲ忽推シ人ノ厭ハレニ様其身勤儉ノ實行ホキ相テ敬服信從セシメ要スル事
- 一 巡行先ニ於テ願書訴狀等取次其後一切停止并私謁苞苴取扱ハ涉リ我様ノ爲教間敷勿論ナレキ事
- 一 希望ノ者有之我々禁嚴祈禱ノ後一切停止ニ事
- 一 大令ヲ奉養シ諸國巡行其境ニ至リ其所簡轄府藩縣吏士令之禁内ニ應シ教諭スル所ニ至リ神祇村長解老以下男女ニ

限之其人負フ計リ日刻ヲ以テ今集セシ教典ヲ誦讀シ講談誘導
懇切ヲ盡ス事

一府藩縣教案モ右ニ條件ニ准シ其宜行フ事

先般宣教師其お般に於て是人初志を人選舉半々
神祇官に之を出入り重細に布告せし然れども藩に之を太
選挙する者未だ其後迄之を以て上

四月十日

宇都宮府用人

福山藩より御書に云ふ所の後悔悟改めし入籍せし然れども
式并定まりぬ之に通ふ者附れし以て此後藩方にて
右同二月十八日附

全凌令議下規則

- 一各藩の文書ハ格付ハ從前法を敬之四例ハ可申事
- 一太々朝權と張り國伴ヲ維持スルヲ以テ今日之目的トス
- 一當今議下ハ議事ニ模範ヲ寄リ天朝ノ憲於以テ月幹藩に
天戴ヲ請ヒ然後各藩ニ通達ス事
- 一藩政事ハ大體關係ス事ハ或ハ今議下ニ持参ス事と取事
今議下ハ強シ人藩政府關係憂國之士を人選ニ事
- 一右表昨年来當兵隊主として其末元分ニ實効主義依り各藩之應
於今ハ際機發を可仕時ハ此度實効主義主自然
朝廷は補翼之一端としも其成可申と改議去歲事

年四月

阿比事情書と内政率

須本藩士數十人山口藩隊隊通一兵此隊入道身團々本
藩士を輕く濫伏せし徳定藩探出一同示知事ト新く服土

六月十八日御觸寫

六月十四日

八坂祭

八月十八日 御盂婆祭

五月十九日

今宮祭

四月卯日 稻荷祭

右京市中大慈寺舟常日當府休暇々奈山洋國中社寺凡意淺
古達あるものや

唐年六月十三日

京都府

親王

系 桂宮 一系有栖川宮 一系伏見宮

別院宮

右當主君の時ハ称家ト

二系 山階宮 二系 東伏見宮 二系 兼頂宮

三系 梶井宮 三系 照光院宮

右一代限リ称宮ト

門跡

曼珠院 勸修寺 大覺寺 圓満院 妙法院

青蓮院 仁和寺 知恩院 梶井 聖護院

混源院 随心院 三寶院 蓮華院 實相院

右門跡ト可称事

但親王ト未續ミ而ハ宮ト移ス事

派門跡

本願寺 東本願寺 眞正寺 錦織寺 寺候寺 佛光寺

右派ト称ス在任無任不抱

右丹比瓦宮無任の時ハ室ト可称事

東京来状抄書

一 朝廷一拜ハ木下氏金部共 今取寄表ハ出張を親云事ニ依
引年一七千四 期限云々全ク成功ニ成ルニ由朝鮮王王大義

也トナリ右事柄ニ付神ノ其外洋主佛軍艦ハ不幾天津ノ敷同
 凡ル中右告報ハ必定敷トナリ起リシテ凡ル確報ナク来日ト云
 必細密告来ルヘト

在外國新ナリ来ト尚委細告来ハ其節可供三覽

今報士族卒族録制ニ定リ付限長三氏並以下ニ者凡別紙
 通事限ニ以テ校取北歐下リ方丈ノ故以可致事

庚午九月

右ニ通上 作出ニ相連事

太 政 官

東 京 府

出兵三代以上ニ者但有印ニ者ハ格別

百俵以上ニ者	金 百 兩
百俵不滿ハ拾俵迄	同 八拾兩
ハ拾俵月 六拾俵迄	同 六拾兩
六拾俵月 四拾俵迄	同 四拾兩
四拾俵月 二拾俵迄	同 二拾兩
二拾俵月 以下ニ者	同 一拾兩

但五ヶ年ニ可賜事

出兵三代以下出兵者ハ三代以上ニ者

百俵以上ニ者	金 百 兩
百俵不滿ハ拾俵迄	同 八拾兩
ハ拾俵月 六拾俵迄	同 六拾兩
六拾俵月 四拾俵迄	同 四拾兩
四拾俵月 二拾俵迄	同 二拾兩
二拾俵月 以下ニ者	同 一拾兩

但五ヶ年ニ可賜事

出兵無ニ三代以下三拾年以上勤仕者

百俵以上ニ者	金 六十兩
百俵不滿ハ拾俵迄	同 四十兩
ハ拾俵月 六拾俵迄	同 三十兩
六拾俵月 四拾俵迄	同 二十兩
四拾俵月 二拾俵迄	同 一拾兩
二拾俵月 以下ニ者	同 一拾兩

但五ヶ年より可賜事

右月新二十ヶ年以上勤仕者

但五ヶ年より可賜事

右月新五ヶ年以上勤仕者

但五ヶ年可賜事

右書五ヶ年より可賜持可下分六ヶ年割額可下渡事

別紙通達技師職下渡員修治計向難事より新富院

下移産業主より世継より身主名跡受者其より

取調可下事

九月

東京府

右通達九月廿日額額新元事方て此通達方事

岩泉縣松智事小室信太文新徳篤藩大参事此命九月六日

横濱出帆日晦日早天神ノ名徳篤ノ藩智事并中井田中五位日

船主源平ノ名由黒田彈正左衛門松垣大進家等ハ六月四日

東京出立ノ後右宮津属長澤文吉市右月船主月新日事

津藩より通達

此市所敷表

一 松島石以上ノ大藩ノ事

一 各藩智事東京三月交代 朝親ノ事

一 各藩参事東京三月通達事

大参事ハ 二重限

権大参事ハ

五重限

女参事ハ 通宣

權女参事ハ

属政ノ事

但大藩ハ通宣

一 各藩等級士族卒族二等ノ事

一 死刑ノ例ノ上流後ハ三月月官歴ノ可下事

一 十分ノ外歳入事一海軍増強ノ事 天朝ノ可下事

但各藩海軍及整備 天朝ノ可下事

従事ノ通可下事

一 右ノ事件ハ事ノハ文照比於事内事方不 知事收納 残九事不

吾等不才一海軍將士也 天朝に上納
右件の事等衣之由、舟松山藩權大参事、冷水也、而左の一昭東
京、而後之者本藩に在り、我等諸方、也、

一此度異人轍物西陣、若、牧、隘、不、便、利、由、舟、東、西、本、煩、寺、以、借、入、其、成
轍物場、取、主、異、人、時、見、物、有、我、也、東、都、府、權、大、参、事、由
人、上、應、接、之、我、也、

一去年七月、長根藩士、卒、九、千、七、百、人、中、浪、花、表、出、去、同、日、京、都、邸、に、百
七、人、中、入、込、去、成、り、

一裁判人、國公、是、迫、旧、京、都、府、設、立、主、死、同、邸、枕、面、衣、束、車、濕、
場、下、舟、兎、角、病、人、多、く、お、来、り、故、此、度、千、年、釣、度、と、り、方、子、丁
化、徒、刑、人、國、公、場、中、取、主、去、成、り、事、

唐午六月下旬下聞

頃日横濱種戶等ノ異人追々歸艦スト其所以ヲ探索スルニ於
テニニ國好敵英ノム使以下十四名ヲ斬戮ス英人怒テ其償金數
百万金ヲ乞フ不肯ニテ曰國賊ヲ殺戮ス何ソ一金ニ以テ可償ノ理ナレ
若大艦ヲ以テ迫之凡吾亦國賊カシテ防之若魚玉ト成凡堂ニ無
悔ト爰ヲ以テ英夷佛國ヲ合併シテ盡カスト云云或曰既ニ兵端ヲ開
クト果如何。愚按合衆ノ各國何ゾ久ク和睦スラ得ニ不年ニテ
破ルニ必セリ既ニ普人英佛ト有遠論ト聞往昔蘇張六國ノ連衡
ス已破テ秦ノ爲ニ弁舌セラレ其例和漢英多シ今西洋變亂ハ我
皇國ノ大幸歟將ニ此期ヲ失フ勿レ謹シマシテ可カラヌ

著江藩子京都府中物苗中ニ作
不意府中見拘留 府中禁堂若出因
默然獨座累無事 一日長於送一秋
風送鐘声夜正深 因窓談月照秋吟

朱書

世間百事皆拋却

唯憶阿翁遠悼心

蘇三首和歌

楠無衛正成

暮春

影る花も口敷く春ふしひあはれ涙も昔よりくさくさ

忍悲

浅き古きものけしきや中にけしきもあはれ人なりあはれ

迷懷

以末よりあはれけしきありあはれ

文文

建武二年七月日

和歌喜多院經卷裏面楠正成和哥三首懷紙

蓋懷紙ま古き裏に經の詠歌書し卷トシ名也

予請之也

實美

石炭度三條公山子

竹川式胤

戊辰十二月對及執職者大倭使ノ名ヲ以テ

渡韓並新政報知 朝議所筆書契

皇祚連綿、某相兼摠攬大政、二十有餘年、余中世以降、兵馬之權、奉委將家、外國交際、并管之、至將軍源家康、開於京都、亦歷世、而昇平之久、不能流弊、事興時亦戾、爰我皇上登極、更張經紀、親裁萬機、欲大修隣好、而貴國於我也交誼已久矣、宜懇款以隔世不渝是我、皇上之誠意也、乃差使份以尋回國悃、惟希照亮、

十二月

從嚴原藩先問書契寫

本邦頃時勢一變、政權一歸、皇室在貴國隣誼固稟、豈不欣然哉、近差別使、具陳顛末、爰于此不佞嚮奉、勅朝、京師朝廷特褒旧勲、加爵進官、左近衛少將、受命交隣、職永傳不朽、又賜證明印記、要之兩國交際、益厚、誠信永遠、罔渝、

朱書

慮慮所感佩曷極。今般別使書翰，押新印以表朝廷誠意。貴國亦宜領所旧來受圖書事，其原由全出厚誼所在，則所在則有不可容易改者。雖然，即是係朝廷特命，豈有以私害公之理耶？不佞情實至此，貴國幸垂聽諒在深望。

十一月

貴國之稱皇，稱勅大低天下無異辭，則行之某國自^當然而順。苟其不然，則此重寶之所不可喻衆力之所^不能貴國亦知弊邦之必不許受而輕試，以此無亦不諒之甚歟。夫三百年金石之盟，至今彼是無數而徒費無益之^難難強之事，非所以永世為好也。恐不知及茲改圖，勢循常旧不至失和之為貴。至若龙廷衛朝臣等字圖常^{字疑ハ誤}換用之說，大令改書以公，又不可曉也。交隣之道，貴在一遵旧規，則弊邦之不肯唯之，不亦宜乎？誠欲申講旧好，使千百如一，日諸允書契之中，何患^難難宜道辭之為難而尚然特久乎？遙想貴國之中亦多通鍊賢畫之人，尚計不出此良可慨也。紗希諒悉不備。

庚午三月

東萊府伯

大差使公
館司公

小臣依田白茅誠惶悚死再拜謹白。臣奉朝命入朝鮮探討其狀情謹奉貢探索紙若于今又條上。臣妄論敢採進止。朝鮮近年大興武官，練兵制器械，諸方作兵營，諸道畜金交之^者武官皆曰結交，則日本終以我為藩，為須損卻其意。今國王採武官之說，以有不遜之文字損卻之，嗚呼其損卻之是朝鮮辱皇國，皇國豈可不下。皇使以問其罪，予哉朝鮮知守不知改，知已不知彼，其人深沉狡獪，固陋傲復，覺之不覺激之，不微故斷然不以兵力泄焉，則不為我用也。况朝鮮蔑視皇國，

朱書

敕慮所惑佩昌 今般別使書翰押新印以表 朝廷誠意
貴國亦宜領所旧來受圖書事其原由全出厚誼所在則所在
則有不可容易改者雖然即是係 朝廷特命豈有以私害
公之理耶不佞情實至此貴國幸望 軫諒在深望

十一月

貴國之稱皇稱勅大低天下無異辭則行之某國自^當卑然而
順苟其不然則此重寶之所不可^不留衆力之所^不惜貴國亦
知弊邦之必不許受而輕試以此無亦不諒之甚歟夫三百年
金石之盟至今彼是無數而徒費無益之^難難強之事非所以永
世為好也恐不如及茲改圖^勢循常旧不至失和之為貴至若尤
近衛朝臣等字圖^字常換用之說大令改書以公又不可曉也交隣
之道貴在一遵旧規則弊邦之不肯唯之亦宜乎誠欲申講旧
好使千百如一諸^允書契之中何患^即宜遣辭之為難而尚
然特久乎遙想貴國之中亦多通鍊賢畫之人尚計不出此
良可慨也^終希諒悉不備

庚午三月

東萊府伯

大差使公
館司公

小臣依田白茅誠惶昧死再^謹白臣奉 朝命入朝鮮探討其狀
情謹奉貢探索紙若干今又條上^臣妄論敢採^進進止
朝鮮近年大興武官練兵^製器械諸方作兵營諸道畜金
交之^者武官皆曰結交則日本終以我為藩為須損卻其書
今國王採武官之說以有不遜之文字損卻之嗚呼其^損損却之是
朝鮮原 皇國 皇國豈可不下 皇使以問其罪乎哉朝鮮知
年不知改知已不知彼其人深沉狡獪固陋傲德覺之不覺激之
不激故斯然不以兵力泄焉則不為我用也况朝鮮蔑視 皇國

朱書

謂文字有不遜以與恥辱於皇國君辱臣死實不共戴天之冠也必不可不伐之不伐之則皇威不立也非臣子也速下

皇使一名又選大將一名小將三名列卒三千大將皇使舉大義問所以辱皇國者彼必屯遭緊不能降伏謝罪唯命是聽焉於是皇使忽去大兵遽入其十六大隊向江華府直攻王城大將卒之其一女將卒六大隊進自慶尚全羅忠清三道其一女將卒四大隊進自江原京畿其一女將卒十大隊潮鴨綠江自咸鏡平安黃海三道而進遠近訶待緩急相應角之騎之心可不止十旬而虜其國王矣不然而徒下皇使雖百往復實下策却怯不若征討之最速朝鮮仰正朔於清國其實不欲事之以其清祖興乎栗秋也然苟仰正朔則患難相救義當然故當天朝加兵之日則遣皇使於清國說所以伐之者而清不聽之而出緩兵則可并清而伐之朝鮮有大殷君國王之實文也丙寅年朝鮮與仲蘭西戰爭後專握政柄擅威福唯好武而無深謀遠慮厚稅歛畜金穀下民莫不怨望焉一日我舉三千大隊以蹂躪彼之巢窟則

武崩瓦解下人之大殷七縱七擒容易耳全皇國為不城則蝦夷呂宋琉球滿清朝鮮皆皇國之藩屏也蝦夷業既創削拓滿清可支朝鮮可伐呂宋琉球可噬手而取矣所以朝鮮之不可不伐者大有之丙寅之年佛國攻朝鮮取敗歟懷恨無限必不使朝鮮長久矣又魯國竊窺其動靜皇國亦有可攻伐之志皆當涎乎彼金穀之滿皇國若失好機會而與之匪人則實失我唇而我齒必寒故臣庸為皇國唱捷伐也今茲出師之論則人必以廢賊盡國破其論臣謹披伐朝鮮有利而無損一日雖投群金穀不十旬而得其償矣今大藏省每歲出金貨二十萬圓於蝦夷未知幾年而咸用拓矣朝鮮則金穴也采獲亦頗多奉拔之徵其人民與金穀以用之於蝦夷則大藏省不唯取其償者幾年省開拓之費其利豈不倍乎故伐朝鮮富國強兵之策不可容易以廢賊盡國論却之也今皇國實憂兵之多而不憂之少諸方兵士未東北之師頗好戰削翹足思亂或恐疆界訓內亂之憂幸朝鮮之舉用之於斯而洩其兵士鬱勃之氣則

朱書

不唯舉屠朝鮮大練我兵制又輝
之乎哉

皇威海外豈有不神速伐

之乎哉

庚午三月

午七月十日即觸之

今主為沙拾壹、通升、或著、御市告、或藏、居、京、松、と有
非、沙、貨、潤、澤、と、或、藏、より、同、米、沙、下、深、と、或、藏、於、黄、文、と、有
ト、方、通、用、及、同、杯、升、と、有、分、時、相、場、と、有、或、通、用、と、有
但、相、場、通、用、と、或、り、又、沙、林、蔵、杯、主、格、黄、文、内、引、上、と、有、と、有
或、或、と、有、或、り、と、有

老艾之石水成乎

大板出张

庚午六月

民部省

大適陳相公得可平

石山碑云：中社青兗孝漢志達者也。

午
七月

京都府

今般下漢家より本通近而高嶽壑刻に至る身来り七月二日より
卡面弘美許より依之右川筋該處物運送より成るハ美哉元三條

卡面訟差許。依之右門館鼓。爲物運送。了了。成者。八寒。我。是。三。除。

差舫持共引合運轡度年

本通山城五中社寺共衆淺相達る事也

庚午六月

京都府

自今僧侶官位任職等具外共卅七款上物

梶原
十帖

右之通所定相成。平

唐年六月

久政官

末通身相達也

庚午六月

留寄官

右通表 作小原山性寺中 寺院に無淺き達なる也

但本文自今儒作臣之云云云云是近

御所上物波来向色寺院二月事美香降得遠矣
波乃云々事

庚午七月

京都府

外勢省、吏朝鮮國に探索に行つた者之詠

外勢省三吏三入對馬之謀士を伴ひ渡海上陸又對馬の平鑑と出
 陣くに入るを得たりを王城の地へ入る又總に金山浦之府使に應接せ
 一也也

一 往日 勅書を受けりしを如くも、前カに朝鮮にてハ徳川氏を日本
之王と思ひ居たるに今 王政一新を称するハ他人徳川氏を滅し王と
改むるありと云ふ得且 勅書に不敬傲慢の文あり故あり也
一通信貿易を進む事大難う又至て頑固なり故に他國と貿易
するの意あり也

一往年佛國也戦争の事ハ佛人初老ハ説諭一々和親を結ばんとせり
鮮人從之戰争セをまじり然るに佛艦暗礁に碰らば賊と費して
戦ひ北頑固の小玉を削化する迄ありとて引揚たる也

一 朝鮮文武共に善くして武学ハ殊に盛人也器械ハ大纒銃弓矢
鎗銃等也

一魯西亜朝鮮に面して説虚あり

一 對馬とハ後來深く親睦ス對馬度朝鮮より儒令七千多
なり朝鮮と云ふ事日本より馬一是故に常に戌亥七半人
と送り來り

一 鮮人おまじく日本人ハ世界に強者の者なり日本人を人々と鮮人三人を
勝事と得事と云ふなり是對立する兵を二送るに強兵を擇ぬ故に
都株の佐氏七千金多にり

一 人家に周圍を石を以て積み、竈、鍋釜内に存して外より火を燒き、
一 牀に敵まゝ、其上に席を敷く

一朝鮮ハ公クミヲ清朝の年号を用ひ私ハ自國の年号を用ゆ

一物價至之賤一朝鮮沙對馬に渡り是を携へて以て我々の

一 学校に在りて經二十史文献通考等の書を藏版して詩文を鑒へ
行ふなり

一、麦を扱くにふと召出依て日本より麦と扱く黒椒と扱へり其の一
五、其の書を一日に卒へたに依り里正呼て早三日の書を一日に卒へたに依り

二日ハ何とて夢をよと處を停る一由

一 日本酒を飲せしに羨ありとて喜ぶ貿易を北表酒を飲と得
一 上と云ふ夢を飲せしに貿易の法をくも久しき言へき

一 煙管の長サ三丈中一人首を盆を床に坐す一人首を又く

午五月九日夢

朝鮮國礼聞

一 朝鮮國にて戦争起り同國頗る奮壯るは風をけりを兵の兵と戦
にや虚言ま辭

一 佛人との事より普魯士の軍艦朝鮮に往く由必夫大事を醸しと
按るに右戦争の事確實なるハ普國にや未詳

一 朝鮮國に 勅使に召はる依田氏建兵は彼國と討合ふなりと
申す中一説に高知藩朝鮮追討は建議する先鋒とある
一手に可い反議論のト一未詳

午五月九日夢

外國人應接の事ニ付諸官更に前議けりやとてうへ宗廟の事にや

一 日本政府外國の鑛山司とは雇ひる依田の瀧山と聞かむ方
中る中と堀口と一極急忽ち大急を得

一 天覽科浪花を送り貨幣を造らし先んて中野判事と九
七百多兩を送り出さる一 志近く涌出するに至るなりと云ふ

一 魯西臣鉄道を開き 山丹滿州に及ぶなり又此の石炭を用て而
陸より事也他果して鉄道成功せば宇内普の勢と強し

一 龍溪花所人夫人と申合も猪幣洞涉盗と申し 教を製造と相取と
禁獄北前紀聞最中和夫人於合と拾人

一 薩長岩下依田氏任参議

一 同吉井幸藏京杉両下右歸没

一 河田作之馬彈止大忠

一 三光院大坂府副知事

一 對馬多田莊藏大坂府大参事

一 東京北頭不穩依田氏と日集議院あり大議論あり
一 此節伏水練兵場兵卒八十員後三年更除隊に出るなり従来

云劉英武と主として今般件式に改む迄より起る事
 一京師軍務録の副録創建諸藩一石より徴兵を人々撰挙し

録制

一門九家 千石

一門閥巨室 七百石

一土卒上等 三百石

一但し二百石以下増減あり

一旧熟孫の知事ノ家派と出リ

一旧熟十二等

一石数四物成石石限米四拾石

一我録書賣ノ法より賣者定限ナシ千石出モ之ヲ賣リ許ス但百石以上

一人賣リ禁ス登定ハ千石ノ派と賣ラントスハ是ヲ十人賣リ買者百石

ノ上ヲ禁ス事録九石ノ者ハ十石ヲ買フ許ス自共平均ノ法ナリ

一日廣隅ノ三及内株の數百二十二巨室大巨屋ヲ領ス其地今尽ノ之ヲ改

止ル政府ノ地ナリ此録ノ法ノ之ヲ始ム

一日宮子株萬津石見之ヲ領ス派三千石其實ハ十石余麻以寫

情ト系數宮子ト運輸スル者多ク系地ヲ以テ派トス今改定ニ從フ

一薩士回來系地ヲ以テ録トス故ニ實數名多クニシ

一知事家録千石 誤アリ

學校

一國學局 同寮

一漢學局 同寮

一洋學局 同寮

一醫學局

一漢學局上等並子ノ令讀シ下局ハ小學ヲ會讀ス自學只好ハ僕ニ講義

居寮外寮生四時ヨリハ時迄本館ニ出テ勤學ス

一文藝ヲ揚ケテ文章ヲ修メシム

一改訂初ヨリ知事公巨室門閥ノ色テ大義ヲ修シ 朝音ヲ讀ス

一改訂議論東征新歸ノ各隊ニ出テ名義名を修シ徒ハ去カレハ之ヲ

討テ始ムアリ

- ・要路の人物ヲ黜陟ス旧案ニシテ残ル者ハ四方ノミヲ猶ハ人々ヲ内ニシテ
 若下西郷ノ如キヲ多シク用ル
- ・藩内一般紳法ヲ廢ス之ヨリ三年希祭儀ヲ起リ漸ク寺院ヲ廢シ昨
 已年ニテ事行ハ行ハ去年又人々ヲ華祀神道ヲ用ニ
- ・祖先ノ廟教ヲ毀テ新ノ神祠ヲ造リ春秋も度ヲ以テ祀典ヲ行フ
 悉ク佛寺ヲ毀テ紳像ヲ燒ク僧侶ヲシテ髪ヲ蓄ヘ俗ニ帰セシム此強ノ者
 是ヲ兵士ニ充テ老衰ノ者終身之ヲ給ヤス
- ・華理感社家ニ托シ之ヲ行フ或ハ子ヲ親族之ヲ博華ス皆墓ニ陪ニ被視ラ
 唱々墓表ニ実名俗名或ハ仍々令ノ謚アリ
- ・廢村製鉄場先君ノ時ニ創シ近年ニ至テ大成ル大砲ヲ器械ヲ請ル
 行儀場ハ多シ製鐵ノ機成ル米餘及物ヲ販賣洋人ノ店ハ至テ習熟ス
 藩内多民軍女共場ノ入テ府役ス
- ・制鉄紡績ニ場日府二千五百人今省テ五百人紡績物一日九百五十觔
 此書薩藩ノ制法ヲ以テ筆記セシモノ歟

風聞

此府政府より人数を以て情状を用元此ノ類と製作スル者と
 探索シテモ人々不幾 其至當ノ明ニテ事嚴ナリヨシ其根本ヲ如何
 として過日情状場ニ者共過半中捕メニ去成居ル訴出スル者も不
 然死右情状之道具と製作スル者ヲ其儘ニ去スルも如ク不
 情状之徒より觸ル政府ヲ誹謗スル者ヲ政府ニ捕メ不謂止
 不依人数計及中手致去成と訴ラ多仁郎ハ訴意成ル文ハ情
 情慈ニ以テ計るも雖も罪人の其身と不顧却テ持テ捧ミテ
 去ルノ類ナルニカルタ製作人ハ比情状也

四月廿五日年定ハシ同翌元日付附九并

藩情ニ義身鄙見奉止ル元來戰闘守古今法ヲ異シテ滑者
 情郭忌城之制ニ臨ミ変革決シ己ニ海外列國ニ托シ實戰之驗シ
 屈其制ヲ改メタル 皇國ニ旧法ヲ墨守スル不能ハ理據方之
 之然殊ニ方今之ヲ國難ニ去成ル多者極要咽喉ニ代ハ我朝集

情之威規と拘る異邦の珠璣之定則を成り捨てし改築スキハ外海
 を禦キハ意勢ヲ以テ守ル其奈小郡ヨリ東ニ城郭ヲ在リ或ハ
 考ハル所哉藤下城之智ハ湖中ニ計知シ形勝之地ニ在リ皮
 毎ク風波ニ毀壞セシ倭淫ノ爲メ連年莫太ニ国力ヲ費シ方自今
 樓櫓門墻等尽ク廢撤シ其旧址ヲ以役吏之費ヲ儉ヒ且永久
 修理ノ往費ヲ去リ實用ノ軍資ニ供スル時ハ自ラ百教聲華ノ
 一端ニ在成テ尤モテ外邦ノ奉親リ所上

庚午四月廿五日

兵官志中

本多藩不藩知事

本多膝下藩知事

古今之沿革之審之藩城樓櫓多廢撤波必建議之詠を之
我之有例之通也 則食之事

庚午四月

太政官

風
聞
書

高知諸既_ニ出_テ會盟之料首_ニ之_ニ今以近隣大中藩トモ文隆然
舍_ラズセサレ長藩ハ是_ニ反對_シテ更_ニ文隆名譽_ノ下保護_ス近能_ク
探索_ス之_ニ應_ギ花ハ事_ノ多_ク合_シ世靜_ニ關係_ス也且世官國方_ヲ養_フ
吾_ガ未詳

普魯士公使如ハルル更ニアリヤ軍艦ヲ朝鮮ト向ケ名誤アリ是必
北帝ノ事ヲ破ルノ基ヒナラト思ヘリ

前件之義ハ朝鮮ハハ近ク勅使ヲ主シテノ趣ナリ

水戸藩士中脱走人物之由仁等ノ事件ハ

結城藩給伝、由前々之事件、舟屋宅者之寢、更城戸後、一節、名
紫、迎村ニテ、未、裁ハ、必、各、捕、書、時、以、記、中、充、由、

紀名儒文脈下文通核

勢凡松坂之遊女屋在リ者節有遊女は廢止ニ被上依之儀迷惑之者
多出來濟臥安濃津ハ藤堂領ニ是ノ莊有ハ此止リル者來リト云方以
松坂之遊女共唯今之云云云凡千計百五之役人及小童ヲ遊女屋員

聲を込め、兵隊は西へ、小方へ連々として下を張隊は此方へ
行くと、警報をたて、又見物、南の方へと下を尋ね、見物、
将二重緒とて、具に調練、初りて、又立、公見、不能、皆、
出、下、押、余、此時、暴徒、書生、等、皆、形、に、戒、つ、進、出、せ、ハ、龍、も、後、に、
出、ル、ト、煙、ノ、如、シ、水、の、如、シ、制、ス、カ、ス、此、の、警、報、も、木、同、ヤ、實、負、三、人、
頻、リ、ヒ、テ、見、物、人、の、中、に、入、リ、ト、ス、此、年、淺、シ、テ、解、大、騎、馬、ノ、官、人、
葉、来、ツ、見、物、中、に、幾、横、に、葉、迎、シ、御、下、リ、ト、云、先、ノ、友、人、も、又、勢、に、
テ、得、テ、鞭、ヲ、フリ、迴、シ、ン、カ、如、シ、シ、テ、薩、兵、ノ、兵、士、ヲ、シ、カ、又、公、報、サ、リ、ケ、ン、勿、テ、
兵、士、憤、激、シ、テ、葉、負、ノ、兩、手、ヲ、取、テ、隊、中、に、引、リ、ト、ス、又、人、斗、シ、其、官、人、
面、色、也、如、ク、謀、シ、同、役、も、又、説、言、シ、騎、馬、ノ、人、モ、何、カ、辭、ヲ、發、シ、ケ、ン、カ、忽、チ、薩
兵、馬、ノ、口、取、テ、馬、ノ、口、ヲ、引、リ、ト、ス、故、官、人、大、驚、キ、馬、上、梅、伏、シ、テ、逃、レ、リ、
初、漸、シ、テ、役、人、免、サ、レ、テ、逃、レ、リ、カ、此、後、ハ、未、ダ、故、計、ヲ、ス、見、物、人、等、
成、テ、十、分、前、進、テ、見、物、シ、後、ハ、大、覽、場、近、ク、近、見、物、人、立、歩、テ、大、笑、
ス、ヘ、シ、異、人、五、名、来、テ、見、物、セ、リ、九、字、相、面、狼、煙、上、紅、白、龍、出、此、時、薩、
兵、隊、英、式、テ、大、小、鼓、ヲ、ハ、ト、横、笛、ヲ、吹、文、ヲ、押、出、シ、大、覽、場、ヲ、一、齊、ニ、

遙、拜、シ、テ、種、々、運動、シ、終、テ、銃、鎗、ヲ、遣、シ、連、發、散、兵、追、テ、杯、其、熟、練、至、妙、
シ、テ、感、歎、堪、ズ、実、ニ、天、下、ノ、人、虎、狼、ノ、如、ク、恐、怖、ス、モ、理、ヲ、ナ、リ、ニ、隊、三、隊、番、号、
ノ、如、ク、引、テ、出、シ、曲、挽、シ、テ、大、炮、声、間、断、ナ、シ、元、田、安、一、橋、ノ、兵、隊、幕、府、ノ、
傳、習、ナ、シ、先、練、妙、手、際、立、テ、此、隊、ノ、主、兵、運動、大、小、炮、ノ、一、度、ニ、チ、
出、ス、其、響、キ、天、地、ヲ、動、カ、ス、如、ク、騎、兵、六、十、四、五、人、シ、故、力、運動、シ、ミ、シ、テ、
葉、破、ル、術、ヲ、為、ス、其、殘、念、ニ、御、親、兵、之、精、練、又、妙、ニ、テ、筆、舌、盡、ス、ヘ、
カ、ス、大、隊、恰、モ、一、人、ヲ、步、カ、如、ク、數、百、ノ、人、足、糊、シ、カ、ト、思、ハ、ル、前、後、友、友、
向、直、リ、或、ハ、ミ、字、ニ、進、ミ、又、ハ、一、ノ、形、ニ、行、ナ、ト、我、心、我、足、ヲ、動、カ、ス、如、ク、連、發、ノ、声、
只、一、發、ノ、大、砲、カ、ト、怪、シ、此、ヲ、見、テ、其、熟、學、凡、不、成、ヲ、知、シ、步、兵、ノ、操、練、終、
テ、薩、兵、野、戰、炮、六、ツ、ヲ、挽、テ、大、覽、場、ニ、迎、ヒ、兵、士、一、齊、ニ、帽、子、ヲ、チ、テ、上、動、
キ、下、テ、伏、ス、是、洋、礼、ニ、今、日、祥、礼、ス、ハ、只、薩、兵、ノ、餘、ハ、皆、棒、ノ、筒、ヲ、礼、ナ、リ、
諸、運、動、シ、後、發、炮、シ、引、ハ、ミ、テ、隊、ヲ、始、メ、發、炮、シ、テ、其、響、キ、百、千、ノ、雷、ノ、如、ク、
山谷、動、揺、樹、木、振、リ、倒、シ、カ、ト、警、報、ノ、其、迅速、猛、烈、衆、ハ、百、萬、ノ、勇、力、士、々、ノ、
関、羽、張、羽、ニ、テ、謀、將、孔、明、張、良、アリ、ト、云、兵、如、何、ソ、此、ノ、器械、向、テ、事、ヲ、得、ヤ、
據、夫、鎮、港、ヲ、唱、フ、人、日、本、獨、立、ヲ、謀、ス、者、早、ク、改、心、シ、テ、西洋、ノ、技、藝、ヲ、

學に終る彼方右出テ勉勵スシ今日行軍の時ヨリ司令教導拔刀
各持別又白刃ヲ握テ大ニ凡今ハシ二字半大蛇ヲ終ル僕達ニシテ
鳳琴ヲ拜ヒト思ヒ帰道左右所家見物少知シ喬麦菓子茶店
園子牡丹餅芋飴取付テ喰フ人夥多商大利ヲ得タルハ亦坂門外
ヲ還幸ヲ拜ヒ奉ル錦嶺先立
主上御馬上也今朝出御ハ御馬上テ吉井郎ト御乗物青山ト御藏山社内
ヲ又御馬上ト也 御壽齡御十七ハ又ト見上奉ル執願ヲ知ク何トナク
氣言ク物ト云々給フ都御行列書ノ知 御乗物ハ兵隊ノ称ヨリ昇キ
来レバ時己セ字也跡ノ身テ外樓内ニ幸リシ号砲一發惣勢勝
三度茂シテバト動カス知見物ノ居ル婦女子大ニ驚キ叫ビテ出セリ
又号砲一發番隊ヨリ順々引退ク樓内御門入ラニスルニ通行也

模村緯表之寫

萬機之至當之御改正其意之 御盛意深ク奉感戴臣正直微
熾之躬ヲ以テ登庸以來日夜苦心シテ力仕貴胄來今分毫モ其驗
考之星霜已三周年癸亥之貴保ヲ奉恩納辰戌利柄今位階蒙
宣下所以不憚恐懼元來當所下之儀也種々之人品難居土地之
形勢多變年々榮習難脱以施改リテ故障不少臣正直元ト
西國之一寒士之今也迄無任ニシテ其間周旋仕却便臣方々
奉考ル苟モ奉稱 朝位ヨリ實行其當ヲ不滞リテ噫實之
貴更ハ戸位之累ヲ重キニ我御改正之御盛意不承所喜以臣
宿志非ス懷之位階返上仕貴若丈無任ニシテ有位置負之上席ニ
列ル義多難裁之少障有之々々下席ノ位還之少沙汰奉復貴
臣正直不堪恐懼敢以赤心閣下所敷也少瞻察
御執奏件願仕誠恐誅惶頓首

庚午六月

模村京都府權太奉事津直

長谷京都府知事卿 閣下

一從前刑餘之賄以刀劍之利鈍ヲ試ス我職之事リ為嚴禁取締
不復其代人賄或靈天蓋陰差等シ密賣致ス武ハ凡其功驗無

之事、是亦嚴禁、取歸可致、事
一從前之、倫首自今、宣旨、所改、其、所、六、諸寺、宿、位、任、職、
泰、內、等、諸、願、者、總、布、宿、可、美、出、執、奏、主、之、向、大、執、奏、可、
美、出、事、

太政官

千六月、阿波、強、援、事、件、德、島、藩、主、語、

箱田家、正、主、之、家、本、藩、主、之、意、と、行、進、し、去、月、十、日、之、舉、動、及、其、
箱田家、之、吉、川、家、同、様、藩、列、に、任、令、胡、主、方、之、先、年、の、同、家、用、人、
上、田、幸、島、上、京、致、し、專、ラ、勤、王、を、唱、周、旋、形、事、由、然、今、般、に、正、主、
振、箱田家、之、家、番、通、之、臣、家、と、違、ひ、其、身、一、席、に、主、不、ル、多、不、都、
合、之、吉、德、島、藩、知、事、公、に、轉、酌、其、は、し、得、人、に、分、藩、主、不、服、之、他、是、
限、之、と、謂、し、得、其、箱田家、元、来、有、福、之、言、跡、も、別、事、言、行、の、五、院、
知、事、度、美、箱田上、京、致、人、中、に、封、之、と、存、詰、前、書、七、人、之、中、も、人、
殘、立、主、人、者、東、京、邸、と、脱、し、テ、夜、ラ、日、に、繼、テ、早、馬、早、駕、に、馳、を、登、り、歸、主、
試、是、と、同、藩、元、脚、之、主、國、善、廷、に、見、急、に、臣、不、死、所、と、即、強、援、之、報、知、し、
東、京、殘、之、二、人、主、事、ヲ、子、如、何、柁、ノ、企、て、及、に、難、中、と、し、一、と、先、揚、り、屋、
入、り、附、力、し、由、

一 昨、年、美、羽、ト、出、兵、之、德、島、主、隊、戰、功、甚、し、却、箱田家、之、戰、功、亦、甚、し、出、兵、之、
者、歸、主、之、上、限、居、其、外、遣、兵、其、其、後、ハ、三、十、日、以、下、壯、年、之、士、と、主、隊、
取、建、佛、武、修、習、之、能、者、古、來、及、牛、肉、ヲ、專、ラ、食、料、ト、シ、頻、リ、奮、勵、し、
切、し、し、壯、年、等、事、に、其、者、甚、と、希、明、主、者、形、勢、を、見、ハ、右、柁、に、暴、卒、
及、し、也、也、其、度、暴、卒、を、一、之、隊、に、從、前、高、孫、之、者、多、く、上、士、ノ、子、
或、是、ハ、參、事、中、之、下、至、ヲ、不、忍、參、事、中、に、於、テ、下、至、ヲ、為、感、三、臣、傷、若、巢、
縣、知、事、小、室、信、大、丈、我、德、島、藩、參、事、中、に、作、付、不、下、至、取、極、臣、
一 既、に、暴、後、主、人、と、主、及、以、隊、長、ノ、以、及、牛、肉、九、市、下、降、助、主、人、怒、主、度、
事、留、主、中、寄、勤、及、主、不、主、能、動、主、力、能、操、主、滑、主、入、能、力、及、
事、主、及、以、一、と、憂、以、知、事、中、に、款、主、迎、刻、履、主、事、由、其、後、權、
大、參、事、井、上、幸、島、出、張、奮、勵、誤、得、及、以、下、先、人、數、に、揚、主、由、右、井、上、主、
先、年、美、羽、出、兵、之、際、に、際、に、奮、發、主、者、に、從、主、者、指、揮、ハ、力、主、者、主、

護兵境に兵猪の尻より一里を市上浦より出張せしを重役近衛子
 撃多し猪の尻より一里を市上浦より出張せしを重役近衛子
 喰當同家ハ進撃せしを重役猪の尻徳島の間中道中より中
 今般之事件を廣之陳暴り近衛より下保福同家ヲ諒り激徒
 本北と太書きたる傍布杭を建てる等諸般之是ヲ極とる等再
 度建てる中重を以て考る本藩を激奉り之と轉る事ハ

諸實者京都府實負非常重事ハ勿論進退移徒或ハ代下出強
 歸京去尔来當實并彈正其官有等可居出事
 唐午六月 留 守 實

二月六日東京出同正言京著之報知
 一旧幕軍艦奉行當時靜岡藩中頭八景海軍局長公裁所
 出張外 作甘支 右水 仁渡才ハ近便ナリナ
 新橋今般不機ニ其成上坂右ハ今馬車通ハ板ナリナ

但昨日より取あり近て出来て成り事
 一五楊より取扱喰達近近船通ハ其成程之目論見既後書付
 九七五より取扱喰ハ右水多分堀下ナリ其成り事
 一米價白らも乃井長合勢州米ハ南京ハ其水計外ニナ
 一東京明も屋五五も麦作ニ其石不兼由右石ハ判其ハ一海
 一當時太学校中助教治田藩川等番船方ハ塾生九平人監周藩知
 事云南部表を而塾生ハ其入其仁塾仲々南都ハ其呼捨
 近々下署

養濃國郡上藩
 士族 辻 千 平
 千六十二
 右未先般宣教授ハ為設部布告之語ハ其屋ハ右ハ右選出
 其北其限ハ唐ハ其上

午五月

郡上藩公用人

戸川

神祇実事役所

上京出所柳屋之邊薩兵之口善授正方之累年薩兵之面石之
持奈不役方之薩兵之口善授正方之累年薩兵之面石之
多六常郎之取中身牌物之口善授正方之累年薩兵之面石之
比廣上薩兵之口善授正方之累年薩兵之面石之
年忌之薩兵之口善授正方之累年薩兵之面石之
比薩兵之口善授正方之累年薩兵之面石之

六月十二日

今般石之口善授正方之累年薩兵之面石之
隨之口善授正方之累年薩兵之面石之
件之口善授正方之累年薩兵之面石之
衆之口善授正方之累年薩兵之面石之

庚午五月

盛岡藩公用人

并實市傳達所

并付札伺之通

水戸藩通書

一當藩觸下麻生藩之別紙寫之通於東京表決
此紙之者不欠主方之末亦以送除時所用向方表報中
美之麻生藩愛輦地内之者亦以入方之而所用各之者
意之故當藩所用向方表報中亦以入方之而所用各之者
雖一主報中亦以入方之而所用各之者
以以同辦之上諸藩通之引拂之時以終之京諸一藩之
以以同辦之上諸藩通之引拂之時以終之京諸一藩之
且當時 押駐軍中亦以入方之而所用各之者
是近之通所用各之者亦以入方之而所用各之者
仍於後以通所用各之者亦以入方之而所用各之者

庚午二月十九日

水戸藩

大野 藩 公

別紙寫

西京の差金と云ふ用人の差金不及多し用方より希ふ者多し
年報より此布告方より身他他利途より身金多し不共
四月末より得此限より向より

麻生 儒

用人

年事 所役不

所附札

不及一付金と云ふ

別紙に達西京より用方より差金多し用方より希ふ者多し
東京より達し金多し用方より不及多しと云ふ

東藩城櫓多し高麗等破懐減し向者陰度不共加集
席切に仕度此限より向より

庚午九月廿四

郡山藩知事

所附札

同通

草梁紀聞

朝鮮の形勢也

國王王室ノ近親之ノ當王同姓ノ跡族ニテ先甲子年前王李昇
死去ノ後十七歳ニテ王位ヲ嗣キ十九歳ノ時男子ヲ誕ス當己歳廿二歳今
王父李是應ヲ大殷君唱フ國內ノ政權ヲ掌握シ驕奢淫靡ノ
所爲多ク私謁賄賂ノ習風公行シ國民頗ル怨嘆ノ狀ニ凡何分氣
焰ニモ洋船掃攘ノ勇斷ニ威服ニ狂ヲ背後ノ色ヲ顯サス壁ニハ密雲
不雨トモ言フキ國勢ナリ

一方今ノ鎮議政全炳字年餘四十有餘左議政ハ洪淳穆ニテ右議政ハ
嗣負ナリ當任ノ東萊府士李顯徳ハ大殷君ハ心腹中ノ人ニ來ル六月
仇期ニ任特命ニテ滞任ノ聞ニ訓導安俊卿ハ大殷君ハ微ニ時讀書
ノ指南ヲ得別ニ昵近ノ者ニ常ニ呈書ヲ免ニテ私ノ用向ヲ養リ種々ノ
注文俊卿專ラ差配スト云

同俗所謂沉深狡猾ヲ以テ思量又ハ智謀ト云ハ表向ニ達重卓越ヲ

示る亦鮮夷ノ二風當訓導ノ如キハ淺露浮深ノ振リモ見ユ其名幹ノ支
務ヲ談ニ至テハ同一般ノ習凡ニテ文具操弄ノ術ヲ逞スル見タリ

東萊府使金允使同國ニテ兩使道ト唱ノ外ニ在テ文際ノ職ニ倭東萊ハ
文官全ハ武職各主管ス所アレ威權ノ重キ東萊ニ在リ金山や、方リ
訓導別差ヲ兩譯ト唱ラ日本判事三十員ノ内ニテ撰シテ草梁頂ニ來リ專ラ
周旋ス大小ノ事件此者共ノ取扱ニシテ全ク一路ノ通用ナリ役權ニ訓導ニ
在テ別差數ニ備ヘシ彼等譯官ノ名稱アレ共總テ本朝ノ詔言ニ不通
只本朝ノ事情ヲ達スラ以テ此官ニ充ツト云

大殷君漸次奢侈強ク竟ニ國計不支ハ百文錢ヲ鑄造シ通用ノ金布
去レテ遐陬僻邑ノ人民敢テ奉養セズ賣買ノ道絶所在ニ窮迫スハ
程々々致ハス者此舉ノ不可ヲ立論セモ更ニ充容ナカリ方果シテ如是ト
四民拳ヲ相議スト云

去レシ丑年本朝使者ヲ遣シテ係宇内ノ形勢ナレハ通信ノ感柄故カ
劍銃砲ノ如キモ入用アラハ求應スヘト云爾後當テ所望セズ海防ヲ
固ハ全ク備ルト云東萊水營ノ如キ頗ル大砲ヲ用意ス共其他草梁頂

ノ近傍ハ素ヨリ灰石海三十里ノ間崖岸モ其形迹ヲ見ズト云軍用番
船アレ共腐朽蝕入ニテ用ニ可立ニ非ス當昔月以米草梁ノ近在米價騰貴
シ殊ニ賣米セシメテ貧民殆ト餓死及ニテ其故ヲ問ハハ道許多ノ
儲蓄米アリテ多至一説ハ道新ニ賦稅ヲ増シ多分ノ用金ヲ割リ
當ニテ其家富ノ者錢穀ヲ枯シ下民此疾シキ罹ルト云兩說トモ的據
ナキニモアラヌ

一度商道ノ漆原一揆ヲ起シ府使ヲ責立暴行掠奪スルニ因テ急ニ追捕使
ヲ差向ルト云

本朝變革ノ形勢敏ヨリ知悉スル見ユ其由ヲ問ハ清國ノ通致ニテ上
海新聞ト云

洋船裝束ノ防衛ニツキ常ニ譯官トモ之說ヲ聞クニ最前ハ海岸ノ近キ
村落ノ男女立返キ薪水牛雞ノ如キ其掠奪ニ任セ置カ寅年戰劇後ハ
不然專ラ拒戦ノ手立アレ今至テ國內ノ實情モ六六異艦ノ整齊未
沿海ノ民不殘リト其上陸ヲ待テ受ケ切所ニ在テ決戦スル國論ト云
北京ハ當今兵乱アリテ清帝モ避難シ懷屈ノ狀カ見ユ其故ヲ尋ルニ

南京人某年久シク北京ニ在留シ清ノ政治不得宜トハ可棄ノ機アルヲ察シ
今ニ至テ兵勢大ニ振フ此等ノ不徳ノ時變ニヨリ北京ノ途中中肋盜賊ノ
難多ク高路暫ク間断シ物貨不流通ト云

一 北京ノ物貨取回シ和館へ賣出スル從來ノ習ミテ西洋木綿ナト多分ノ
事ナリ即今ニ至リ絶テナシ西洋木綿ハ却テ和館ヨリ買取ル物多ク當國
東萊公總テ洋物ヲ密南ヲ禁シ犯ス者アリハ直ニ梟首スルノ嚴令アリ
去レ洋木ハ潜ニ買取ル者アリ間々梟首セラル昨今ニ及ビ其禁モ自
然ト弛ムナリ今作當時ノ政令猛烈ヲ先ニ國內ノ教職頗ル多シト
聞エ當東萊モ先斬後啓ヲ免サレタリ

一 割導手朔別差ナリ朔ノ在勤ナレ當割導ニ限リ大殷君ノ電通ヨリ交代ノ
期ナレハ東萊府ニ於テ新宅ヲ構ヘ妾ヲ畜フト云

一 國俗平常民ト雖モ在上ノ人ヲ容易ニ誅謗スルヲ不聞近來流言頻リ
多ケレハ渠カ内政ノ紛擾スルヲ推知スヘシ

一 同國ノ清ニ於ケル事大ニ禮ヲ執ルト言フテ莫ク臣從ハ不相主冬至皇曆
兩度ノ使休ラ道ハ正朔ヲ奉ルノ例ニシテ真箇ノ舉行ニ至ラテハ取捨アルト

見テ一軍ヲ指テスハ本朝往復ノ書翰ニ於テモ明代ト遠ヒ支子年月ハ
シテ年号ヲ不記ハ概知スヘキ也

一 大軍即親交ナレハ渠カ國體ニ在テ耳スヘナレ日後僕視セラレト恐且ハ
清國ニ對シ忌諱モ不ナク最前北京ヨリ耶蘇ノ教師國內ハ凶賊民
ヲ煽乱スル洋艦襲來ノ機ニ乘リ頗ル妖術ヲ施ス故ニ許多ク騷擾トモ成リ
今以耶蘇ノ餘殘アリタルヲ難居ス其内西洋ノ一婦女同俗ニ紛レ玉城
近辺ノ酒家ニ在リカ二十年許ノ至候其事露顯シテ幾ニ就ク又同國ノ
一婦人東萊府下娼妓トナリ力是亦拾数年ヲ経テ誅セラル

一 北京ニ紙幣ノ通用アルト見エ民有者大買ヨリ差出シ至テ引換者來ハ
金銀錢ノ内望ニ任セ取換ルト云

一 當時朝鮮錢壹文ヲ北京錢三文五分ニ充テ通用ス其以前ハ北京錢五
文ニ尚ナリシカ近年ニテハ如前ト云

一 王政一新告知初ノ印章ノ變更官衙ノ改稱其他私文ノ綴例止ス
辺ヨリ國內ノ人心洶々シテ不平終ニ于テ可及ク衆謗多ク聞ユ

金澤藩

現米六拾三萬七千三百十六石余

但金銭共石八兩三米三斗一ノミ
此士卒壹萬九百七十六戸

麻児島藩

同式拾九萬四拾石三斗余

但右同新元琉球ノ除ノ
此士卒四萬三千百十九戸

但卒族ハ平民混之有之且土著附
壹萬石ノ千四百八十六戸余

和蘭主トイ氏ハ本國ヨリ報知有ク兩人英佛國サトヨリ昨今吉日
信来佛國ト云漏生ト後年不和既一昨冬以来兵端相起リ且
一時鎮靜然ニ西洋者七月十日我六月九日之決 諸以玄馬ソ文
由並判然退之改羅巴動搖ヲ釀魯西亞トルコ何太利不名ハ總ノ字
漏生ニ屬シ英國ソースリヤ等ハ佛ニ附キ全島亦主東西分リ實ニ

就所ノ合戦和蘭ハ本國ニシテ疆國ノ中央ニ位置シ只農兵多ク集
廠至國界ヲ守爾スルノ外他事無ク群議一決其他小國ハ地遠近
ニ多ク力多ク自定テ地而進ニ兵端亦開キ事ト夷人共顔セシ憂
昔主我ニ此一戦ヲ強國ハ益盛天弱ニテ備キ國ハ滅亡且タ事
不謂改羅巴開化分明ノ極ニ至リ一妻ノ秋トナリ昨ヨ知音今ヨ敵
名全ク時勢カ然ラシム所ナリヤ 將又此一大動ラ支那ハ等國ニシ
ニト推シテ不日ニ天シトハ詳討入小京帝都火攻スルト一決既十日ナリ
陳様シテ不日ニ天シトハ詳討入小京帝都火攻スルト一決既十日ナリ
前新聞ニ見ル方セシニ支那ノ地 千餘佛ノ強ニ集ヒ魯英ノ兵ノ
来ヲ待ト事 強以地端上大乱ノ勢今ヤ一日モ不可急ヤ兵制ノ大
基礎並ニ公法ノ行ハモ治世ノ時斯ル乱世ト相成ル多ク且ニ兵力強
弱ニ級スルモ然實ニ憂國之士名者一日モ安眠スル不能又其様
重ニ録シ事ヲ多クトシ事ハ如ナリ 中文化ノ皇張スル所ノ國力
在ル者ト如出其事ハ先生以説タ
右者兵敗省ト出勢漢滿其書篇七月九日信聞

六月八日達

戸籍簿新之義 此一般之規則可也 作出之月日下遷延継承成
次方より身元向別紙通規則 應以氏子改可成事

氏子改規則

- 一 華族より士族平民に至る其地之籍に偏入方より其都其産土
神社に名簿ヲ納免神社之平證ヲ文而持て成事
 - 一 華族係入從僕奴婢其外化方より未任者ハ先其居下地ノ神社に名簿ヲ
納免平證ヲ文而持て本國産土神社之平證ヲ文而持て成事
 - 一 但入籍者奴婢等歸土ノ前ハ平證ヲ納免名簿ニ下渡テ成事
 - 一 生児育より黄姓不拘都其産土神社に小児ノ社名考及名簿ヲ
納免産土神社之平證ヲ文而持て成事
 - 一 但社名之日限ハ各代ノ同習ニ應給ル也 惟モ凡五十四ニ越スルハ
産土神社に納免名簿ニ書法凡ノ如シ
- 紙呂程村ハツカ
諸族平民其外共通式

年号月日何如堂男 見名

某府士族何某平
年月日何如堂男 見名

某藩支配何郡何町
年月同新堀 同

右同断官位姓名 何某

同 某藩士族
某 何某

某藩支配何郡何村
年月日出生 某 何某

右名簿及出方華族者身士族其支配役場庶人ハ其村在座年号
等より取扱可成事
右利ノ平證者常人常用ノ実字を用ニ生児ノ分表其又之平證ヲ可成事
産土神社に納免平證札ニ書法凡ノ通

何所某神社氏子
官位姓名

年月 社務
姓名實名

何所某神社氏子
官位姓名 見名

- 一 右神社之下記者各社に用兼ル米下用ニシ
- 一 諸族平民其外者納免名簿ヲ檢査ニ神社に下證ヲ渡ス者ハ取扱社務
に任ルニシ
- 一 名簿ヲ納免平證ヲ下渡セシ後ニ各神社之社務より氏子名簿ヲ作り
官許ノ地方官に提出スニ其書法凡ノ如シ

表紙 國郡氏子改帳 何神社 社務何某

一 華族 某神社氏子

何人

一 士族

何人

内 男 何人

内 男 何人

一 平民

何人

一 僧尼 何人

何人

此外 入籍奴婢其外 小民籍外者 均以此法 以爲書入

但 欠籍其外 經僕奴婢 多都其化 籍之 歸入 也 凡 未 便 人 去 一 字 均 認 擇 之

一 二 社 限 此 社 取 調 法 尾 社 務 人 之 帳 名 認 入 調 下 之 年 号 支 千 月 日 社 務 人 誰 下

合 神 社 合 氏 子 人 負 男 何人

官 負 於 此 之 通 妻 下 之 外 之 人

前 書 之 通 妻 下 之 外 相 達 者 仍 妻 書 於 下 取 之 官 負 連 名



東京大学経済学部図書館



5505535186